2024.1.8　『十日ゑびす 2021』を再掲



## 地域シリーズ　：　十日ゑびすと『宮川町』

今年の“十日ゑびす大祭”は，コロナ退散による商売繁盛を願っての催しとなりました。京都南座の辺りから屋台がならび，恵美須神社に行き交う人々が互いを気遣いながら祭りを楽しんでいました。恵美須神社の横には京都花街の一つ宮川町があり，先ごろ元新道小学校跡地活用に併せて宮川町歌舞練場の建て替えが話題になりましたので，その周辺も歩き回りました。そこで今回は，十日ゑびすと宮川町周辺をご案内します。

### 《ご紹介》

“十日ゑびす大祭”（初ゑびす）は今年も行われた。東映の女優さんによる吉兆笹の授与や，舞妓さんによる福笹・福餅の授与は中止となり心配したが，コロナ対策を行う中，例年より少ないとはいえ，商売繁盛・家運隆盛を願って人々が訪れた。みんな希望を胸に新春を慶んでいる。

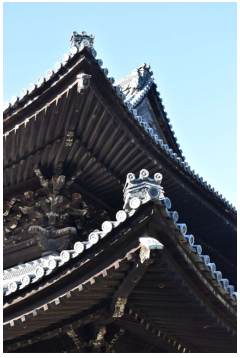
この恵美須神社は，1202（建仁 2）年に禅の祖といわれる栄西禅師が，建仁寺建立にあたり，境内にゑびす神を祀り建仁寺の鎮守社としたのが起こりという。駒札には「応仁の乱後，建仁寺再建の際も同所に再建され，今もなお当地の産土神（うぶすながみ）として人々の崇敬を受けている。」と書かれている。ゑびす信仰の象徴ともいえる笹は，元来，京都・恵美須神社独自の「御札」の形態が広まったものともいう。

同社の西側には京都花街の一つである宮川町の歌舞練場があり，南側には元新道小学校が建っている。昨年 10 月に，この小学校跡地と歌舞練場が一体整備されることがニュースになった。学校跡地活用の事業者が選定され，跡地活用と併せて宮川町歌舞練場も一体整備し，宿泊施設などの建設と歌舞練場の 100 年ぶりの建て替えなどを行う計画だという。この計画では，歌舞練場の敷地内に宮川筋と新道通を東西につなぐ小路も造られるといい，花街の回遊性が高まることも期待できる。一昨年 10 月には祇園甲部歌舞練場でも弥栄会館と併せた大規模な整備計画が発表されてお

➢　十日ゑびす（恵美須神社）

マスク越し
商売繁盛
冬深し

➢　建仁寺



➢　宮川町歌舞練場と元新道小学校

り，花街文化の発展と新たな賑わいづくりにつながることを期待したい。

宮川町は，かつては広大な鴨川の河原であったと見られており，ここで祇園社の神輿洗いが行われていたので宮川とよばれ，この川筋に町ができて宮川町となったようだ。1666（寛文 6）年に宮川町通が開通し，4 年後に鴨川護岸の石積みが完成して町並みが整い，歌舞伎流行とあいまって茶屋町として発展してきたという。この風情ある町並みを保全するため，京都市は「祇園町南歴史的景観保全修景地区 宮川町地区」に指定している。

宮川町歌舞練場は，1873（明治 6）年に婦女職工引立会社（翌年に女紅場と改称）が設立され，1896（同 29）年に女紅場の教習を改築して建設された。1916（大正 5）年に木造 2 階建の新歌舞練場を建設して披露の「温習会」を開催し，1950（昭和 25）年からは『京おどり』を行い，春の年中行事として観覧者を楽しませてきた。1968（同 43）年には歌舞練場の前面（西側）に鉄筋コンクリート造の玄関ホール棟を増築し現在の姿となっている。

ところで宮川町と鴨川との間にはかつて電車が走っていたのではなかったか？

その通り 1987（昭和 62）年まで京阪電車が走っていた。鴨川東岸は，1894（明治 27）年に琵琶湖疏水が開削され，鴨川と疏水の間に京阪本線が造られた。1910（明治 43）年に天満橋一五条間が開通し，5 年後に三条まで延伸されてから 72 年間，宮川町のすぐ横を電車が走っていたのである。

京阪本線の地下化に伴い宮川町の横を走る電車の姿が消え，琵琶湖疏水も暗渠になり現在の姿になった。2 年後には京阪鴨東線ができて出町柳駅まで延伸され，同時に川端通は拡幅・延長され大変便利な場所になった。しかし残念なことは，川端通と宮川町のスケール感の違いである。車 1 台が通る程度の道に

➢　宮川町歌舞練場

秋空に
ちょっとお出かけ
三姉妹

➢　宮川町（歌舞練場玄関から西をみる）

町家がならぶ宮川町の町並みに比べ，川端通は 4 車線の幹線道路である。この違いを川端通沿道の緑地空間で調整できればいいのだが。